

令和4年度 第1回 岐阜市住民自治推進審議会 会議録【概要】

- 1 日時：令和4年7月19日（火） 午前10時00分～12時00分
- 2 場所：ぎふメディアコスモス おどるスタジオ
- 3 出席委員：14名 篠田委員、清水委員、安田委員、石原委員、野村委員、渡邊委員、市村委員、上松委員、高木委員、菊本委員、三浦委員、桐山委員、金子委員、大塚委員

※会議の公開の可否および傍聴者：公開 傍聴者0名

4 次第

1 はじめに

新委員紹介

2 諮問

3 議題

- (1) 岐阜市協働のまちづくり推進計画2018-2022の進捗状況について

【資料1】

- (2) 次期岐阜市協働のまちづくり推進計画の策定について

【資料2、3】

4 その他

5 配布資料

<資料>

委員名簿

- 1 岐阜市協働のまちづくり推進計画2018-2022 行動プラン
【令和3年度事業実績及び令和4年度実施計画】
- 2 重点推進施策 課題シート
- 3 岐阜市協働のまちづくり推進計画2023-2027 骨子（案）

<参考資料>

- 1 まちづくりに係るアンケート調査結果（令和4年度市民意識調査より）
- 2 令和3年度第2回岐阜市住民自治推進審議会会議録
- 3 岐阜市協働のまちづくり推進計画2018-2022 成果指標・参考指標一覧

【会議内容】

1 はじめに

新委員紹介

2 諮問

3 議題

(1) 岐阜市協働のまちづくり推進計画 2018-2022 の進捗状況について

会長

市長から、新しい協働のまちづくりの推進計画ということで諮問書をいただきました。前回、平成 30 年度に策定したものから 4 年が経ち、次の 5 年間に向けて策定を進めるということです。

岐阜市未来のまちづくり構想の中には、新しい岐阜市の考え方やまちの未来像が書かれています。2040 年の姿ということで、未来像をきっちりと見せた上で、そこに向けてどのようなことをしていくのかという、バックキャストが必要です。特に、新型コロナウイルス感染症の影響で、住民自治のあり方も相当変わってきています。

「このようなことができたらい」という市民の声を具現化していくために、現場の声や向かっていく理想についての話し合いが、この場でできればよいと考えております。

事務局

岐阜市協働のまちづくり推進計画 2018-2022 の進捗状況について説明【資料 1】

委員

「地域まちづくりビジョンの策定支援」とありますが、そもそも「地域まちづくりビジョン」というものは何年の計画ですか。

事務局

概ね 10 年程度の将来を見据えながら、まちづくり計画、地域の活動等を展開する全体像をみんなで考えながら描くという取り組みをしています。

委員

地域のまちづくりビジョンは市の総合計画のように進捗管理を行うのか、それとも策定したら 10 年間はそれに沿って活動して、また 10 年後に策定するのか、どちらでしょうか。

事務局

地域まちづくりビジョンでは細かく事業の進捗等を確認するということはありません。住民の皆さんの意識を方向付けしていく、あるいは、引き上げていくことに活かしていければよいと捉えています。実際の計画の見直しや進捗状況については、まちづくり協議会の中で議論がされていくことを期待しています。

委員

「クラウドファンディング型ふるさと納税を活用した NPO 法人等応援事業」として、ガバメントクラウドファンディングが挙がっていますが、それぞれどのくらいの寄附が集まっているのか、教えていただけますか。

事務局

ガバメントクラウドファンディングの実績ですが、令和 2 年度に 4 団体で目標額を 2,200 万円弱に対し、2,500 万円ほどの寄附金が集まりました。令和 3 年度には 6 団体で目標額 4,000 万円ほどに対し、2,200 万円弱の寄附金が集まっています。

委員

資料 1 の①市民の市政参画手法の積極的な運用の中で、令和 4 年度の実施予定状況としてパブリックコメント手続実施主任者説明会など記載がありますが、具体的にはどのようなことでしょうか。

事務局

各部にパブリックコメント手続実施主任者を置いており、その方たちに、「パブリックコメントとはどのようなものなのか」「どのような順序で進めていくのか」というような説明をいたします。

他に、市民協働推進リーダーを置いており、岐阜市が進めているさまざまな協働事業についての研修会を年に 1 回、実施しております。

委員

内部に向けた説明会を令和 4 年度の実施予定に挙げても意味がないように思います。今のご説明の協働の研修のほうが、令和 4 年度の実施予定に挙げるのにふさわしいように思います。協働をいかに進めていくかを庁内で共有しているということと、手続きの説明会とは違うと思います。

会長

市民の皆さんに、よりパブリックコメント手続に参加していただくために、どのような方策をとっていくのか等も、職員向けの研修の中で検討しているのですか。

事務局

各種公式 SNS を利用して、市民の皆さんに知っていただくということで発信しています。

会長

どの程度成果がでているのか、パブリックコメント手続の数値がどれほど伸びているのかという具体的な数値等を検証しながら、毎年、更新していますか。

事務局

パブリックコメント手続の実施件数は年度によって、増減があります。周知の方法も増やしていますし、ご意見の提出方法も増やしていますが、それらが直接どのように結び付いているか、検証が難しいです。

会長

地域担当職員が各地域に配置されていますが、現在、現場ではどのような感じを取り組んでいますか。

副会長

自治会や、各種団体の役員会には必ず出席していただき、ご意見をいただいています。また、イベントにも参加していただいています。

委員

イベントには来ていただいています。定例会や役員会には出席していただけていません。地域担当職員については、各自治会で濃淡が大きく、まったく来ていただけない地域もありますし、役員会やイベントに参加されている地域もあります。地域担当職員の方にどういう役割を持ってもらうかは、「橋渡し」をするということは聞いておりますが、それ以上のものではないということで、位置付けはまだはっきりしておらず、あいまいだと感じています。

会長

現場での捉え方は、そのようなものだと思います。大変よい制度ですので、きちんと充実していくために、ぜひ今年度は、地域と対話、参画していただきたいと思います。

委員

どこの連合会も自治会の加入率の低下と高齢化が課題になっています。また、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、担い手不足が非常に大きな問題となっています。市の職員のOBの方が、定年後に自治会活動に参加されている例が多くあります。定年後もぜひ地域のまちづくり、地域の連合会に入っていただくように、意識づけしていただきたいと思います。

会長

資料1の①「若者の市民参加の促進」で、大学のゼミナールでワークショップをするということですが、高校生にもできませんか。学習指導要領も変わり、今まで「総合学習」だったものが「総合探求」に変わりました。ぜひ、市内の高校と連携してワークショップが実施できればよいと思います。

次に、資料1の④の企業の参画の「アダプト・プログラム」ですが、内容は地域の清掃活動や会社の周りの清掃活動が大部分です。企業の力は、他にもあると思います。活動内容の拡充を重視する方針にさせていただけるとよいと思います。地元企業との連携はどのような感じでしょうか。

副会長

清掃活動が主な活動になっています。特に病院関係と連携が強く、非常に協力していただいていたのですが、現在は新型コロナウイルス感染症の影響で連携が難しい状況です。

委員

企業との連携を強めたいということで、各地域に法人会という組織があり、総会に向き、地域行事について企業へのご協力をお願いしています。祭のときに出店していただいたり、出店できないところからは資金をいただいたりしています。

また、災害時に企業のビルを一時的な避難所として提供していただく災害協定を結びたいという申し出を企業にしています。なかなか難しいことですが、いろいろな提案をさせていただくことが必要だと考えています。

委員

資料1の③「生涯学習によるまちづくり」で、令和4年度の予定に講座内容向上のための研究・見直しを行うとありますが、具体的に、令和3年度の検証で何か問題があったのか、どのようなところを向上したいのか、教えていただきたいと思います。

また、市民活動へつなげる仕組みを構築するとありますが、現段階でどのようにつなげていく仕組みをお考えなのかを教えていただきたいと思います。

事務局

昨年度、学部を再編し、まちづくりにつなげる生涯学習に力を入れ、始めました。地域への情報発信や地域のまちづくりに参加していくまでの道筋が難しかったと感じています。今年は、その辺りのハードルを下げられるように、SNSを利用していくことを考えています。

内容の見直しについては、興味をもっていただける分野があると思いますので、毎年、分野を変えながら、様々な角度から呼びかけることを続けていきたいと考えています。

会長

まちづくりや市民活動へつなげる仕組とは、各まちづくり協議会と連携していくというようなことだと思います。楽しく学び、それを発信するというのもよいのですが、それだけだと、学んでいる人は学んでいるだけということになってしまうと思います。まちづくり協議会、自治会の人材不足解消につながっていく仕組づくりをお願いしたいと思います。

受講された方と地域をつなぐということは、個人情報の問題がありますが、本人が希望すれば可能なはずです。ぜひ、そのような方向でお考えいただきたいと思います。

事務局

アンケートにて「参加してもよい」という方には推薦をして、つなげていく仕組をつくりたい考えで進めてきました。まず今年は、情報発信するという第一歩をしていただくため、SNSを利用した参加方法を考えました。ゆくゆくは、まちづくり協議会につなげていけるように検討していきたいと思います。

会長

講座の内容を変えてはどうでしょうか。実際にまちづくり協議会の方に来ていただく、そこで交流の場をもつ等、いろいろな方法があると思います。

事務局

人材育成講座については、長良川大学の学部の再編の中で「地域力創造学部」「地域マネジメント学部」を中間支援組織の岐阜市まちづくりサポートセンターと一体的に協力して展開しております。

地域力創造学部では、まちづくりに関してより多くの人に関心をもっていただく、きっかけづくりのために、地域の資源、地域のまちづくりのヒント等、まちづくりに関する情報をお伝えすることをテーマにした講座を行っています。

地域マネジメント学部では、実際に地域を運営するにあたり役に立つような事業を展開するという、例えばホームページをつくる技術的支援や地域の中でうまく話し合いをするための支援等、実際に地域で活動している、まちづくり協議会や自治会連合会の方々に、参加を呼びかけています。

中間支援組織である市民活動交流センターと地域の信頼関係を築けるように、日常的に関係を持っていきたいと考えております。

また、コロナ禍で、地域の方への負担をできるだけ少なくしながら、より多くものを提供するという一方で、いろいろな選択肢を提供する必要があると考えております。ただ、まちづくりのヒントや活動する熱は、対面でなければ伝わりにくいということもあ

りますので、講座の内容と照らし合わせながら、個々の企画で考えていこうと思っています。

会長

地域マネジメント学部のリーダー育成の課題として、地域の具体的な課題の実践をしていくという内容の講座を開設していただきたいと思います。そうすれば、必然的に地域とつながると思います。

委員

市全体で開催する講座で、具体的なテーマや課題を設定することは難しいと思います。特定の地域の方が集まり、具体的な課題に取り組むときには、実践的に進められますが、多くの地域からの参画があると、具体的な実践をどのように考えかが難しく、どうしても、その場でのロールプレイ的またはノウハウ的な内容の講座になりがちです。

実践的にしようとするなら、そこに集まってくる人を集めて取り組むような課題が必要です。一方で、広く間口を広げるという意味では、ノウハウ的なことを学ぶ講座も必要だと思いますので、ステップで住み分けるような形になるように、再度ご検討いただきたいと思います。

委員

今のお話は、まちづくりの後継の担い手を育てるということにつながってくると思います。都市防災部では、数年前から、防災士を各地域の連合会から募集しています。毎年、研修を実施し、防災士の資格を取得しています。しかし、地域での横の連携はなかなかとれていませんでしたが、今年からフォローアップ研修を実施して、各地域の防災士の方に集まっていたいただき、連携を図る計画をしています。

ただ、講座を開催しても、全地域から来られるとは限らず、どこかの地域に偏りがあります。地域ごとの濃淡がありますので、各連合会から講座参加への要請をしていくことも必要かもしれません。例えば、まちづくり教育士のような名称の資格をつくり、将来のまちづくりを担っていただける方を育成してはいかがでしょうか。防災士の制度を参考にさせていただき、ご検討いただきたいと思います。

会長

岐阜市の防災士養成講座は5年ほど実施していますが、ようやく都市防災に動いていただけのようになりました。講座の実施を、いかに現場にいかにつなげていくか、もう一歩踏み込んで考え、講座の内容等も工夫していただきたいと思います。

委員

先ほど、若者の参画についてお話がありましたが、市民の方々がまちづくりや地域活動を積極的に行えるようにしていくためには、子どもや若者という若年層の意識を変えていくことが必要になってくると思います。現在、シビックプライド養成講座ということで、市内の小中学校で出前講座を行っていますが、それをまちづくりや地域活動を積極的に行うという面で、市内の小中学校に加え、高等学校にも広げていくことも、今後の方針としては効果的だと思います。

会長

子どもたちが、実際に地域の活動をする事まで踏み込んで実施していただけないと、シビックプライドは醸成できないと思います。

委員にお尋ねします。アダプト・プログラムも含め、地域との連携として、具体的にどのようなことをされていますか。

委員

まちづくり系の事業としては2つ実施しています。1つは、高校生以上の方100名以上を集め、岐阜の未来をどのようにしていくかを考えています。観光や教育、情報発信を入り口にして、そこにどのような課題があるのかを考え、それを実証実験につなげ、8月にその結果を発表します。一人ひとりが課題をどのようにもつか、そして、それを解決していくことで当事者意識が生まれてくると考え活動しています。

もう1つは今年度から始まった事業で、岐阜市にも協力していただき「PIAZZA」という会社の連携アプリ「ピアッツァ」を利用しています。住民の方がいろいろな発信ができるアプリで、教育スポットや人気飲食店を地図上にプロットすることで、そこに人が集まることをねらっています。そこから、リアルな支え合いの場にしていけるように、活動をしています。高校生以上の若者をどのようにまちづくりに呼び込むかという問題に、アプリをつかったりして、より実践的な実証実験等を行ない、実践的なまちづくり活動を体験していただくことに力を入れて活動している状況です。

ぜひ、「ピアッツァ」というアプリを登録してください。他市でも連携していますが、県内で岐阜市が初めて連携したということです。

だれでも情報発信できますので、皆さんと協力していろいろな場につなげていくことは可能だと思います。

委員

生涯学習の件ですが、非常によい制度だと思いますが、生涯学習とは自分の人格を形成していく、自己研鑽というイメージが強くあり、地域で活動として生かしていこうという考え方自体、少し離れているように思います。延べ人数で45,000人ほどが参加さ

れているという実績がありますが、この 45,000 人が活かされていないということです。参加した人は、ほとんどの人には、それを地域で広げていこうという意識はなく、地域のまちづくりや市民活動へ関わるきっかけとして理解されていない状況だと思います。この点をどのようにしていくのかを考えると、連携が一番大切だと思います。

会長

生涯学習に関しては、自分もまちづくりに関わっていきたいという意識をもつ人を掘り起こしていくことが重要だと思います。それが、資料 1 の③の実績の一般養成講座以外の 3 つのコースにつながってきていると思います。

また、公民館主事の方にコーディネーターの役割が求められていると思います。そのようなことも含め、ぜひ連携をしていただきたいと思います。

(2) 次期岐阜市協働のまちづくり推進計画の策定について 【資料 2、3】

事務局

次期岐阜市協働のまちづくり推進計画の策定について説明【資料 2、3】

委員

成果指標は、参考資料 1 のアンケートの結果の数字をもとにされていると思いますが、アンケートの対象者は年齢別、男女別に考慮して決めたと思います。このアンケートが、どの年代の方に、どれぐらいの件数、実施したのかがわかると、結果についても納得できると思います。

アンケートからまちづくりという各自治会の構成やあり方の中に、過去の歴史から引用したものが多く、住民の考えが汲み取られていないような印象を受けました。まちづくりの委員会を見ますと、各組織の代表の方が並んでおり、住民一人ひとりの意見がどこまでまちづくりの中に汲み取られているのか、疑問を感じました。

事務局

アンケートの発送は 3,500 人の方を住民台帳に登録している方から無作為で抽出しています。男女比率としては、男性が 44.6%、女性が 55.4%で、ほぼ半数に近い値なっています。年代別としては、20 歳未満の方が 3.7%、20 歳代の方が 7.8%、30 歳代の方が 9.7%、40 歳代の方が 14.3%、50 歳代の方が 16.8%、60 歳代の方が 15.4%、70 歳代の方が 19.2%、80 歳以上の方が 13.2%という構成になっております。

会長

回収率も 45%程度ということで、一般的なアンケートとしては非常に高いので、市民の皆さんにそもそも関心のある方が多いと思います。

委員

重点施策の1は重要なポイントだと思います。市民の市政参画手法の積極的な運用と捉えてしまうと手法論のようにみえますが、市民が、岐阜市で行われていることに興味を持って、自分の立場や自分の意思で積極的に参加していくというきっかけづくりとして重要だと思います。

NPOや地域の方々でも、現在、岐阜市でどのような方向で、何が行われているのかを熟知している方は少ないと思います。そのようなことを日常的に学べる機会をつくることは、非常に重要だと思います。

パブリックコメント手続は、短い期間に計画書を読んで意見を出すということで、かなりハードルが高く、私自身も自分の専門以外の分野では、なかなか意見をだすことはできません。岐阜NPOセンターでも市政を学ぶ機会をもちたいと考えていますが、私どもだけでは私意的な部分がでてしまいます。市の職員の皆さんにも協力していただいて、学ぶ機会をつくっていただけるとと思います。

一方で、パブリックコメント手続は、1人の意見が、計画に対してどのようなインパクトを与えるのかは、制度上、あまり明確になっていないと思います。ネガティブな意見だけでなく、よりポジティブな意見も前に出ていくような方法があると思います。

また、岐阜市には協働の協議の場というすばらしい制度がありますので、そちらで提案しようと考えています。

委員

先ほど年齢層別の数をお聞きしましたが、これは発送段階の数ですか。

事務局

アンケートの回収の数です。

委員

アンケートを見させていただいて、数字としては厳しいと思いましたが、これは徐々に上げていくものだと思います。資料2の1ページで、「制度を知らない市民」は57.1%ということで、43%の方はご存知だということです。

人材育成にも関して、学校へのアプローチは重要だと思います。学校においては主権者教育の充実が図られています。コミュニティスクールを通じて子どもたちが地域のまちづくり参画できる機会があればよいと思います。

地域では社会教育・生涯学習の手法として、公民館において例えばゲームを交え楽しく気軽にまちづくりを学び体験する講座を実施したらどうかと思います。また、各公民館で課題になっている共通な課題をメディコスの講座で取り上げるなど、

学びの仕組みを作っていただきたいと思います。

会長

前回の協働のまちづくり計画は、あえて高い目標設定をして、意気込みを見せていますが、その後、新型コロナウイルス感染症蔓延により、当所の2018年の数値よりも下がっているものが多くあります。このまま延長線上で、協働のまちづくり推進計画をやり直すということはふさわしくないと思います。岐阜市未来のまちづくり構想に書かれているように、将来のビジョンをきちんと描き、そこにどのようなアプローチをしていくのかという形をとっていく必要があると思います。

全国的には、まちづくり協議会が地域の必要な事業費をすべて地域に渡し、地域側はそれに必要な事業を考え、予算案も含め、実行、検証していくという動きもあります。岐阜市でも、このような理想像を目指さないといけないと思います。

今までの地域のいろいろな組織形態が、大きな社会変革によって、そぐわないものになってきていると感じます。1人がいくつも兼職をするような状況であれば、組織を見直し一本下していく必要があります。例えば、地域の子どもを育てていこうということであれば、子ども会、PTA、青少年育成等も一本化する必要があると思います。そのようなことも含め、市として、どのような地域にしていくか、みんなで議論していくことを目指す姿にしていく必要があると思います。

岐阜市自身も、資金を個別に地域に渡している状況ですが、整理して一本化していく必要があると思います。未来像を5年後の設定にするべきかどうかは議論の余地がありますが、将来ビジョンをきちんと見せる形で、今回の見直しができると思います。

副会長

姫路市ではまちづくり協議会にかなり多額の資金をかけていました。また、名張市では、コミュニティバスも地域で運営していると聞きました。すべて地域に任せて、多額の資金が渡されているところもあるということです。ただ、市役所の職員が専従で、地域に出向き、事務職等に就任しているようです。

防災に関する研修も受けました。地域に一番関係することは、防災と高齢者に関することだと思います。そのような助け合いにテーマを絞り、研修を行いました。大変有意義でした。

委員

会長の意見を聞いて、先を見れば打てる手がたくさんあると感じました。地域を経営していくときに、体系をしっかりと、さらにいろんなことをやっていくということをやっているってほしいと思います。

委員

骨子では地区コミュニティのマネジメントをどのようにするのか、行政と地域との関係をどのようにするのか、などがあまり明確になっていないのでそのあたりを明確にしつつ、やっていってほしいと思います。

事務局

本日は、多岐に渡るいろいろなご意見をいただき、ありがとうございます。地域の皆さんはもちろん、それ以外にもいろいろな団体からもご意見をいただき、1つ1つ洗い出ししながら、見直しを進め、将来像に近づく形にできるようにしたいと考えております。

委員

前回も自治会の重要性についてのご意見が複数出ましたが、進んでいるとお聞きしています。これからのイベント、人づくりは、子どもを中心にしていかなければいけないとお聞きしています。育てながら、二段階で、未来を見通した二つの流れをつくっていくことが重要です。これからは、数字にこだわらず、内容を成熟したものに切り替えていくことが必要だと思います。

4 その他

事務局

(次回の日程について連絡)

<閉会>